

# 東洋陶磁学会 第三十九回大会のお知らせ

錦秋の候、会員の皆様には益々ご清祥の事と存じます。

この度、平成二十三年度の大会を、左記のとおり開催致します。  
奮ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

東洋陶磁学会

## 記

\*日時 平成二十三年十一月二十六日(土)・二十七日(日)

\*会場 根津美術館(東京都港区南青山六・五・一)

<http://www.nezu-muse.or.jp/>

\*テーマ「東洋陶磁研究の一〇〇年を振り返る

(東洋陶磁史はどのように語られてきたか)

\*趣旨 英国や日本で実作品に即した科学的な陶磁史研究が始まっ

てからおよそ一〇〇年になり、東洋陶磁学会設立から間もなく四〇年を迎える。この機会に、現在広く受け入れられ認められている陶磁に関する学説や評価が、何時、誰が、何に基づいて唱えたものであるかをあらためて検証し、現状の課題や問題点を整理して共通認識としたい。あわせて、陶磁器研究会・彩壺会・東洋陶磁研究所、あるいは研究者・コレクター・古美術商・作家が果たしてきた役割についても見直し、東洋陶磁学会を含めて学術団体の意義やあるべき姿についても考える場としたい。おむね、大正時代から『陶磁大系』『小学館版世界陶磁全集』の刊行・東洋陶磁学会設立までの期間を対象とする。

## \*日程

二十六日(土) 午後一時より受付 一時三十分開会

- ・東洋陶磁学会常任委員長挨拶 今井 敦
- ・基調講演「師奥田誠一先生を語る」 林屋晴三
- ・研究発表

「大河内正敏、奥田誠一と陶磁器研究会」

彩壺会／東洋陶磁研究所―大正期を中心に― 木田 拓也

「近代における古陶磁市場の変遷

―中国陶磁を視点に― 川島 公之

## ・見学会

受贈記念特別展「中国の陶磁・漆・青銅」根津美術館

・懇親会 午後五時三十分～ 於・NHK青山荘

二十七日(日) 午前十時より受付 十時十五分より発表

## ・研究発表

「近世考古学と陶磁史研究」 渡辺 芳郎

「古九谷研究の変遷について

―美術史学と陶磁史研究― 今井 敦

「近・現代における京焼評価の変遷

―京焼の名工論に関する一考察― 森下 愛子

(昼食・会場での飲食禁止の為、各自でお願い致します)

「中国陶磁研究の礎

―R. L. Hobsonと小山富士夫― 二笠 景子

「韓国における陶磁史研究と作品評価の変遷

―解放から一九七〇年代までを中心に― 樋口とも子

「明治・大正・昭和期の東南アジア陶磁研究」 矢島 律子

「大正～昭和初期における近代数寄者の影響

―茶陶コレクションの形成と公開に関連して― 横山 梓

「古陶磁と近代の陶芸家―鑑賞と制作」 花井 久穂

午後五時 閉会

## \*費用

- ・大会参加費(参加者全員) 二、〇〇〇円
- ・懇親会費(二十六日・申込者のみ) 六、〇〇〇円

## \*交通

根津美術館(東京都港区南青山六・五・一)

- ・東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 A5出口より徒歩八分(A5出口出て右へ真直ぐ)

NHK青山荘(懇親会場) 二十六日午後五時三十分より

(港区南青山五・二・二十) ☎〇三・三四〇〇・三二二一

- ・東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 A5出口より徒歩一分(A5出口出て右へ約30m、

稲荷神社を右折、左側二軒目)



## 【注意】

- ・参加申込は**十一月十五日迄**に、振込用紙にてお願い致します。
- ・発表の演題および順序が変更される場合がございます。
- ・「発表要旨」を大会前にホームページに掲載いたします。

## 東洋陶磁学会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町二一六一九 三栄ビル二〇一

TEL・FAX 〇三・三三三九・一一七七

<http://homepages3.nifty.com/toyoto.jp/>